

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第9号
2023年9月27日
編集・発行 吉成正士

9月20日、総合の時間を使って、「夕風の街・桜の国」というテレビドラマを、すべてのクラスで視聴しました。これは以前NHKで放映されたものですが、もっと以前には映画にもなりました。その原作漫画も、各教室に置かれていると思います。

内容は、現代を生きる家族と、その家族につながる人々の戦後10年のころを、広島を舞台に描いたストーリーです。

みんながどんな思いを持ちながら観たのか、その感想や私の思いも含めて読んでみてください。

二度と繰り返してほしくない

■広島に原爆が落とされた8月6日は、多くの人が被爆して、多くの人の命と未来が失われました。原爆の放射線で病気を発症した人も多数いました。失われた命や未来は私たちと同じように幸せな生活を送っていたかもしれないと思うと、とても胸が苦しいです。

原爆は、被爆した人に後遺症を残し、死ぬまで苦しめます。私は原爆をつくった人は戦争に用いられると知っていませんでした。同年8月15日に日本は終戦を迎えました。でも、終戦しても、病気や後遺症で亡くなる方もいたし、沖縄は今もアメリカ軍基地が残っているし、「戦争」というのは、起こった瞬間にも多くの人の命を奪い、続く中でも多くの人の命を奪い、終わっても多くの人々を苦しめ、命を奪うものです。私は昔の人々がした苦しい思いや悲しい思いを二度と繰り返してほしくないです。今も原爆によって苦しめられている人はいます。そんな人たちがたどるはずだった未来を、今私たちが生きていると思って、日々の幸せをかみしめて生きていかねばならないなと思いました。

1組TK

戦争は遠いことのように近くにある

■原爆をなかったことにはできないという言葉が心に残っている。主人公は原爆から10年経ってもまだ苦しみ続けていたのが心苦しかった。話したくても話せない、忘れてくても忘れられない、それはどんなにつらいことかと思う。原爆によっていったいどれだけの人が心を苦しめたのか。数えきれない人の心を苦しめた原爆は、どんな理由があろうと落としてはいけない。でも、なかったことにはもうできない。だから、もう二度とこんな過ちを起こさないように、私にできることを考えたい。

まず私は、SDGsに貢献することから始めたい。世界中の人々にゆとりがあれば、争いも起きないであろうと考えたからだ。

4組MC

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから」

ヒロシマの慰霊碑に刻まれている言葉です。この主語は誰なのか、ということが議論になることがあります。

す。皆さんは誰だと思いませんか？

広島を、敢えて「ヒロシマ」と書くことがあります。長崎のことを、「ナガサキ」と書くことがあります。沖縄のことを、福島のことを、「オキナワ」「フクシマ」と書くことがあります。そう書くことで、そこに特別な意味を持たせています。

つまり、単に特別な意味を持たせないときは広島だけど、被爆地広島という意味を持たせたいときには、「ヒロシマ」と書くのです。その違いを感じながら、読んだり、書いたりできるようになるといいです。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから」

本当にそうでありたいと願いますが、言い伝え、語り継ぐ人がいなくなれば、どうでしょう。今も地球上には1万発を超える原爆が存在しています。しかも、ロシアはウクライナ侵攻について、たびたび原爆の使用を匂わせるような発言を繰り返しています。今はまだ語り継ぐ人がいて、ブレーキをかけられているのかもしれないですが、もしそんな人がいなくなれば…。

当事者だけでなく私たち自身のためにも、私たちははっきりと声をあげていく必要があるのではないのでしょうか。それは誰でもない、「あなた」です。

被爆者というだけで差別を受ける

■原爆が投下された後の日本をドラマにしたものをはじめて見ました。なのですごく新鮮でした。今までの学習で、私は原爆が投下されたときの広島に住んでいた人たちの生活の変化や、亡くなった人の思いに意識が向いていました。ですがこの学習で、広島に原爆が落とされてから数十年経ってからの人たちの思いを知ることができたと思います。

皆美さんは、原爆が投下された日から約10年後に原爆病で亡くなりました。原爆は落ちた瞬間だけじゃなくて、落ちた後もすごく恐ろしいものだなと思いました。

被爆者として生きる人たちも同じです。被爆者だという理由だけで簡単に人を差別してしまう人たちがいるということが、本当につらくなりました。そんな出来事をもう一度起こさないために、私たちは平和学習(人権学習)を続けていかないといけないと思いました。

1組HA

以前、ヒロシマがグッと近くに感じられてショックを受けたことがありました。それは、友人の結婚相手が広島出身と知ったときの、家族からの一言でした。「いけるん？わざわざそんな人にせんだって…。」

初めは何のことを言ってるのか分からなかったのですが、被爆地広島出身であることを指していることに気づいてショックを受けたと言います。私もショックでした。そんなことを言う人が今もいるんだ、と思って。

「差別をするつもりはなかった。ただ、あなたのことを思って言った。」

確かに、その人のことを心配して言った一言だと思います。でもそれは同時に、相手を不快にさせ、傷つける一言でもありました。心配してさえいけば、相手のことは傷つけてもいい、というわけにはいきません。

実は、東日本大震災による東電第2原発事故で被災した人も同じような不安を抱えているのだそうです。

「私は子どもを産んでもいいんですか？」

福島県の20歳代の女性の切実な声です。ヒロシマやナガサキではありません。今も放射能に怯え、周囲の無理解に怯え、生きている人がいるということです。そんな事実をちゃんと知っていれば、心無いことを言うことも、思いがけず人を不安にさせることも、最小限に食い止めることができるのではないかと思います。まず私たちが、そんな事実を知り、人の思いをくみ取り、相手の立場に立って考えられる知性や感性を持つことではないでしょうか。

大切に思っていた人も同じように苦しむ

■戦争は人の心に残り続けなければいけないのだと思った。この話に出てきた皆美さんは、10年経っていても自分が幸福を感じたときに、原爆のときの記憶がよみがえり苦しくなってしまうていた。やはりそれほどまでに、戦争とは心身ともに深く大きな傷となり残り続ける残酷なことだと再認識した。

原爆では即死から皆美さんのように時間が経ってから症状が出てなくなってしまうこともあるのは知っていたが、今回のを見たときに、皆美さんだけでなく、皆美さんを大切にしていた人々も、皆美さんと同じように苦しんでしまったりしてしまうことを知った。このようなことを繰り返さないためにも、私が今まで学んできた「語り継ぐ」ということが大切なのだと思う。私はまだまだ戦争については知らないし、体験していないから分からない。けれど、だからこそ語り継いでくれる人や語ってくれる仲間を見つけることも大切な平和学習であり、戦争を繰り返さない未来への一歩だと思った。 2組YM

折り鶴を折ります。千羽鶴にします。そして、オキナワ修学旅行に持って行きます。

いつも私が廊下で折り鶴を折っているところにやってきて、一緒に折ってくれたり、折り紙を数枚持って行っては、教室で折ってくれる子たちがいます。うれしい気持ちになります。

昔、個人的に千羽鶴をつくって、8月6日のヒロシマに持って行こうとしたことがありました。でも当日も仕上がってなくて、慰霊式典が行われる公園内のベンチで焦りながら、それでも一緒に行ったメンバーとワイワイ楽しく糸通しをしていると、外国人が集まってくるくる。

「Oh! beautiful!」

いろんな色の折り鶴をグラデーションに並べ、糸を通して仕上げる作業をしていたのですが、確かにキレイなあと思いました。同時に、折り紙や折り鶴が、外国人にはあまりなじみのない行為なんだということもよく分かりました。

みなさんは、「さだこ」と聞いて、何を思い浮かべま

すか?やはり、ホラー映画の「貞子」でしょうか。でも、別の「さだこ」さんがいます。「佐々木禎子」さんです。

禎子さんは2歳の時に被ばくしました。でも特に何の病気になることもなく、運動が得意で活発な女の子でした。将来の夢は体育の先生になることだったそうです。終戦から10年。小学6年生になり、体調が悪くなって入院した診断結果は、白血病。それからです。「千羽になれば病気が治る」と言われ、折り鶴を折りはじめたのだそうです。周りの人も一緒になって折りはじめました。千羽になっても、禎子さんの病気は治りませんでした。そして、12歳で亡くなるのです。

後日、禎子さんのことを忘れないためにと、同級生の子どもたちが相談し、立ち上がりました。禎子さんの像をつくろうと、広島駅前で募金活動を始めたのです。その輪は全国に広がっていきました。そして建ったのが、「原爆の子の像」です。原爆ドームに並ぶ、平和の象徴です。



8月6日には、慰霊祭に訪れた人みんなにパンフレットが配られます。そのパンフレットには折り紙が1枚挟まれています。折り鶴の折り方が書かれた解説書も挟まれています。平和への祈りを込めて、折り鶴を折りましょうというメッセージです。もしかするとそれは、禎子さんが最後に残したメッセージだったのかもしれない。広島平和記念資料館の最後のコーナーには、オバマ大統領が折った折り鶴も展示されています。

佐々木禎子さんの甥にあたる佐々木祐滋さんが、禎子さんの生き様を残そうと、ミュージシャンとして「I NOR I」という歌を中心に活動しています。彼を中心としたメンバーで、今、禎子さんの折り鶴を、ユネスコの「世界の記憶」へ登録されることをめざして活動しています。

つい先日、今、広島で暮らしている教え子に会うと、こんなことを言ってくれました。

「折り鶴タワーに行くといいよ。折り鶴を折って、ビルの最上階から落として貯めて、タワーのようにする。ちょっと入場料は高いけど、それも寄付だと思えばいいかなって思う」

こちらが発信し続けていけば、いろんな情報を寄せてくれるし、どこか気にも留めてくれます。それもまたうれしいものです。

(10号につづく)

